

よく考え、すすんで学習する子どもの育成
～表現力を育てる指導の工夫～

I 主題設定の理由

昨年度までの研究から、本校の児童については、「話すこと・聞くこと・自分の考えや思いを表現すること」といった、各教科を支える重要な部分についての弱さが課題としてあげられた。そこで、「確かな学力」のとらえ方を再度確認し、その中でも「表現力」の育成に焦点を当てて研究を進めることにした。本校の児童に不足している、「表現力」を向上させていくことが、児童の意欲向上や主体的な課題解決に繋がると考えた。ただ、思考力・判断力・表現力は一体化された物であり、「思考力・判断力」を見える形にしたものが「表現力」であるという捉えもある。それを踏まえながら、表現力を育てる学習指導の方法を探り、授業実践を通してその成果を明らかにしていきたい。

II 研究仮説

表現力を育てる指導を工夫することで確かな学力が向上し
よく考え進んで学習する子どもが育成できるであろう

III 研究の具体的な内容と方法について

- 研究（１） ①講師を招いての学習会
②ブロック別の研究会（低学年ブロック・高学年ブロック）
③授業実践（各ブロックごと）
④一人一実践の取り組み
⑤特別支援学級の学習会
- 研究（２） 日常的な言語活動の充実
挨拶・返事の励行，読書活動の推進，スピーチ活動など

IV 研究実践

1 学習会

（１）「表現力について」 講師：指導主事 保坂伸 先生

2 検証授業

（１）第6学年1組 国語科授業実践 「学級討論会をしよう」 授業者 畠山 忠

（２）第3学年2組 国語科授業実践 「名前をつけよう」 授業者 中根 淳

3 一人一実践

第1学年1組 生活科授業実践 「みんなだいすき～きいてほしいないえのこと～」
授業者 鈴木奈津美

第1学年2組	学級活動授業実践「お楽しみ給食のメニューを決めよう」	授業者	小幡 香織
第2学年1組	国語科授業実践「何に見えるかな」	授業者	武井 美香
第2学年2組	道徳授業実践「公德心・規則の尊重」	授業者	原藤 生府
第3学年1組	国語科授業実践「ちいちゃんのかげおくり」	授業者	中村 悦美
第4学年	国語科授業実践「言葉遊びの世界」	授業者	志村貴美子
第5学年	算数科授業実践「比べ方を考えよう」	授業者	安富智恵美
第6学年1組	理科授業実践「水溶液の性質と働き」	授業者	渡邊 尚英
第6学年2組	道徳授業実践「かけがえのない家族」	授業者	雨宮 和美
ひまわり学級	生活単元授業実践「ひまわりクリスマス会をしよう」	授業者	長沼 薫

V 成果と課題

1 成果

- 表現する力は、社会に出た時もどんな場であっても大切な基礎的な力である。また、どの教科においても学校生活の中で幅広く鍛えることのできる力である。職員室などの入り方を見ていると、昨年度に比べ言葉で表現する力が身についてきているように感じる。日々の学級での取り組み、教務の先生方の声かけ、全職員が同じ歩調で指導を進めたことにより、成果が目に見える形で表れた。
- 「話す・聞く」については日々の指導が大切であり、意識して指導していかないと身につかないこともわかった。
- 掲示資料・教材の工夫・カルテなど、全員で研究したものが各自の実践に生かせることは、大きな成果であったと思う。
- 授業研究では、6年生と3年生の子どもたちが、生き生きと自分の考えを話す姿を見ることができ、そのための支援の方法を学ぶことができた。2本の授業とも話し合いの授業であったが、本時の授業に至るまでのきめ細かい日々の指導の積み重ねを感じ参考になった。

2 課題

- 教師の指導で、その時はできても時がたつとまたできなくなってしまうことが課題である。日常的な指導の必要性を感じた。簡単なことから日々続けていくこと（相手を意識した話し方や挨拶の仕方）が大切だと感じた。
- 今年得られた成果を、児童の学ぶ意欲の向上や自主性へとつなげていく。
- 一回の授業実践で、また一通りの評価方法で児童の変容をつかむことは難しい。自己評価・相互評価を取り入れても、なかなか変容を正確にとらえることができなかった。今後もいろいろな側面から様々な方法で研究の検証をしていく必要がある。

(研究主任 中村 悦美)